

鴨川運河の曳き舟と鴨川鉄橋

石井行昌(いわいゆきまさ)は乗物好きで、京都市電・蒸気機関車・自動車などの写真が残っています。今回は鉄道を紹介します。



No.235



No.236

資料 No. [235](#)、[236](#)、[238](#)、[241](#) の 4 枚の写真は「東海道線 鴨川鉄橋」と名付けられ、東海道線の鴨川鉄橋を渡る汽車を撮影したものです。当時の東海道線は、1921 年(大正 10)の 東山トンネルの開通以前の路線で、現在は JR 奈良線の鴨川鉄橋となっています。写真を見ると、No.[235](#) は複線化の橋脚工事中で、No.[236](#)、[238](#)、[241](#) は複線化工事後のもので

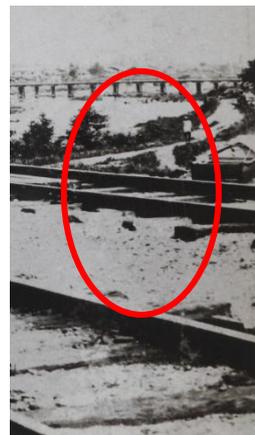
す。

メルマガ第 35 号 (2008 年)でも紹介したように、東海道線の京都・大津間の複線化工事は 1897 年 (明治 30) 3 月に完成しています。したがって、No.235 の写真はその頃、No.236、238、241 の写真はそれ以降の撮影となります。No.238 は橋脚の石がまだ新しく、No.236 は少し古びて見えるところから、同じ地点で何度か撮影したことが想像できます。



No.238

No.238 の写真の右端には、水路らしきものが写っています。これは大津から蹴上まで敷設された琵琶湖疏水を伏見まで延長した鴨川運河です。No.241 の写真では、右奥に塩小路橋が見えます。塩小路道が京都駅から本町通まで整備されて竣工するのが 1903 年（明治 36）6 月なので、写真はそれ以降のもので、この写真では、右端中央に鴨川運河を上流に向かう船が見え、運河の左側に綱を引く人物の背中が見えます。



No.241 とその右側の拡大（部分）

No.241 の紙焼き写真では、今ひとつ分かりにくい画像だったのですが、石井行昌撮影写真資料（乙）の中にある同じガラス乾板を基にして焼き付けた写真を見ると右端がもう少し写っていて、運河の曳き舟の姿がよりはっきりとわかり

ました。それによると、この曳き舟には積荷はなかったよう
です。

(写真資料から 85 資料課 大塚活美)

(2017年11月22日公開)